

まきの木

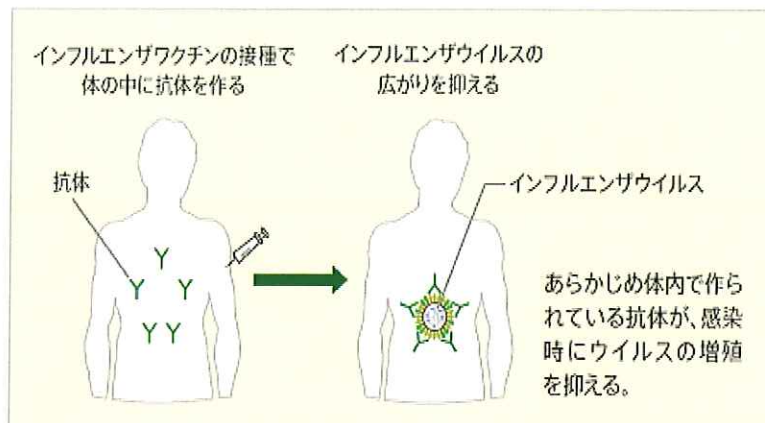
偕行会リハビリテーション病院 透析センター通信



今回は「インフルエンザのワクチン」について紹介します

そもそもワクチンとは？

人間の体は、一度ウイルスに感染すると体の中にそのウイルスに対する「抗体」を作り、もう一度ウイルスが入ってきた時に感染を防ごうとする働き（免疫）があります。ワクチンは予防接種によってあらかじめ抗体を作り、感染を抑えようとするものです。



「たまご」からワクチンが生まれる？

インフルエンザワクチンを作るために「卵」を使っています。卵の中でインフルエンザのウイルスを増殖させ、最終的に感染性を失わせるという手法を取るためです。ワクチンを製造するメーカーは、数百万人分のワクチンを作るために、百万個程度のニワトリの卵を使用します。そのためワクチンの完成後もごく微量ですが、卵の成分が残ります。ワクチンの接種前に使用する問診表で「肉や卵でアレルギーになったことがありますか？」という質問があるのもこういった背景があるからなのです。今までアレルギーがない人もワクチンには注意が必要です。予防接種後しばらくは、副作用が出ないか病院内で待機しておいたほうが望ましいとされています。



ウイルスはこのよう
な形をしています



最後に

インフルエンザの予防にはワクチンの接種はもちろんのこと、日頃からの「うがい」や「手洗い」がとても有効です。

またインフルエンザウイルスは顔などにもついている場合があるので、手洗い・うがいとあわせて顔も洗うとさらに効果が上がります。

ストレスや睡眠不足によって免疫力が下がってしまうとウイルスに感染しやすくなります。無理をせず、きちんと休憩を取り、体力の維持に努めましょう！

薬剤師 濱田 浩彰